2 アピールポイントをうまくまとめよう！

一体どのような情報が取り上げてもらいやすいのでしょうか。その疑問に応えるべく、数名の現役新聞記者にお聞きしました。そこから、当センターが考える、取り上げてもらいやすい情報のポイントをお伝えします。

ズバリ！ 取り上げてもらいやすい情報はコレだ!!

1.他の取組みと違う（独自性）

これが一番大切なことです。似たような取組がたくさんある中で、自分たちの取組はどこが違うのかをはっきりと打ち出すことが必要でしょう。また、取組の新しさも大切です。その場合、全国的な先進性まで行かなくとも、この地域で初めてという面を強調することが大切です。

2.広く市民に求められているもの（波及性）

発信する活動は、多くの市民から求められているかが大切です。子育て中のお母さんや、独居老人の問題等、現状、困っている人がたくさんいることに対してのアプローチは、社会に求められているため、取り上げてもらいやすくなります。

3.将来が楽しみなもの（将来性）

今はまだ立ち上がったばかりだけれども、将来的に大きなうねりになるかもしれない活動は、取り上げてもらいやすくなります。また、将来性がある活動であると、記者に理解してもらうためには、活動の趣旨を明確に伝えていくことが必要です。

4.偏っていないか（中立性）

政治的、思想的等、様々な考え方がある中で、一方の考え方に偏った活動は、取り上げてもらいにくくなります。

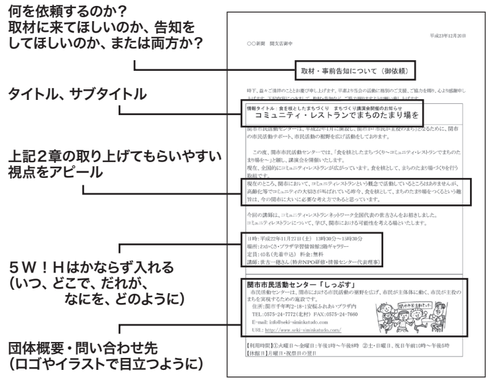
5.写真映りが良いもの

写真映りが良いものは、写真付きで掲載してもらいやすくなります。具体的には、子どもたちや女性、歴史的・伝統的なもの、季節感のあるもの、キャラクター等があげられます。

3 こんな依頼状がいい！フォーマット

さて、情報を届ける先、取り上げてもらいやすい情報について分かったところで、実際にどのような形式でメディアへ情報を届ければよいのかお教えいたします。伝えたい情報のチラシに加え、それを説明した依頼文書をつけることがよいでしょう。依頼文書には決まった形式はありません。忙しい記者に見てもらえるように、1枚にまとめることが大切です。具体的に関市市民活動センターが使っている依頼状の書式を参考に、入れるべき内容を説明いたします。

※このフォーマットは、市民活動センターにお越しいただければ差し上げます。



4 関市内に拠点を持つメディア連絡先早見表

■岐阜新聞・中濃総局
〒501-3803　西本郷通４－６－２１
TEL ２２－０１８８　FAX ２４－７０２１

■中日新聞・関支局
〒501-3242　東福野町５－１２
TEL ２２－３２３４　FAX ２４－３９３９

■フリーマガジンぶうめらん
〒501-3253 栄町1-22-2F
TEL ４６－８０３５　FAX ４６－８０３５
※新聞とは違いますが、市民活動の事前告知はほぼ100%掲載しています。

まちづくり物語

市民活動センターと相談に訪れた方々とが協力して成し得たまちづくりの物語をご紹介します。

Vol.2　REDSKATE（レッドスケート）

ストリートスポーツのイメージを変えたい

「スケボーの練習場所がない。世間からのイメージも悪いんです」。スケートのイベントができる場所探しに、市民活動センターを訪れたのは、レッドスケートの篠田さん。

篠田さんは、ストリートスポーツの世間的なイメージの悪さを嘆き、このすばらしいスポーツをもっと広げていきたいという熱い想いを持っていました。そのため、イベントには、しっかりと公の許可を取得し、スケーターには、マナー向上を訴え、地域貢献としてクリーン活動も同時に行うスケートイベントを構想していました。最初の相談で、まず市内の候補地を選定し、早速、各関係機関に問い合せました。その中で倉知地区にある庄中公園が有力な候補に上がりました。すぐに、管理している行政と自治会長へ、連絡、説明をした後、直接、篠田さんが、お願いに伺いました。自治会長さんは、快く対応していただき、イベント開催の準備が始まりました。「事前に、センターから話しておいてくれたので、スムーズにことが運び、すごく助かりました」と篠田さんは話されます。

イベントの様子

そのイベントは、昨年７月２４日に行われました。チラシやホームページで呼びかけた参加者は、県内はもちろん、神戸、大阪、湘南からも集まりました。午前はクリーン活動、午後は、スケート体験会を開催し、子どもから大人まで幅広い年代の方が楽しみました。「市民活動センターがあったから、頭で描いていたことが実現することができました」と篠田さんは、嬉しそうに話します。

更に、篠田さんは、５月３日を「スケートパトロールの日」として記念日申請しました。ストリートスポーツが、率先して、清掃活動をし、ルールを重んじ、マナー向上を広げていくことを目的にしています。この日には、イベントの開催を予定しています。興味のある方は、ぜひお問合せください。

迫力あるスケートボード

●問合せ先
市民団体 RED SKATE　篠田 浩次
redskate504@gmail.com
http://redskate-jp.com/

市民活動センターでは、皆さんからの、ボランティア活動、市民活動に関する相談をお待ちしております。篠田さんのように、多少なりとも想いを持っていても動き出し方を模索している方や、何かやりたいけれども具体的に何をしてよいのかわからない方もぜひ一度市民活動センターにご相談ください。

動き出す関のジン

NPO法人 みつばちの家

みつばちの家「さんさんさん」の前で

「障がい児者とともに」

NPO法人みつばちの家は今年９月に設立したばかり。障がい児の日中一時支援を事業の核として準備を進めている段階だが、それだけに留まらない広い視野で「家族支援」を行うことを目標とする団体だ。

親が自分自身の楽しみを棄て、行き届かない福祉の仕組みに疲れ果てながら「自分がもし死んでしまったら、この子はどうやって生きていけばいいのか」と不安になる。それは決してあるべき姿ではない。親も、兄弟も、自分自身の人生を充実させて生きてほしい。そして、親の目が届くうちに、一人で生きていけるような環境を整えてあげることが大事だという。理事長の金村さん自身、障がいのある子どもがいる。だからこそ、親の気持ちが痛いほどに解るのだ。NPOとして、もっと小回りの利く、利用者の声を反映させたきめ細かなサービスを実現させたい。そして、この地域の他の障がい者支援団体とも連携し、横の繋がりも大切にしていきたいと意気込む。

障がいがあることを隠したり、日々辛い訓練を繰り返し健常者に近づくよう矯正したりする時代は終わった。障がいのあるままそのままの姿で、これが自分の個性であると、堂々とごく普通に地域に溶け込んで生活できる社会をみつばちの家は望んでやまない。

「この子らを世の光に」。これは知的障がい者福祉の父と呼ばれる近江学園設立者の糸賀一雄さんの言葉である。この考えを理念のひとつとして大切にしたいと副理事長の渡辺さんは語るが、これからは「この子らに世の光を」ではない。純真なまま育っていく障がいのある子どもたちが、世の光になる。近い未来、そんな時代がやってくる。

●興味のある方はこちらへ
NPO法人 みつばちの家
501-3804　岐阜県関市円保通１丁目7-11
TEL：0575-46-8145（ハイヨイコ）